

令和4年度
事業報告書

学校法人 花園学園

1. 法人の概要

(1) 基本情報

法人名 学校法人花園学園
所在地 京都市中京区西ノ京壺ノ内町8番地の1
ホームページ <http://www.hanagaku.jp/>

(2) 建学の精神

花園学園は、明治5年に臨済宗妙心寺の山内に宗門の子弟の教育機関として創設された「般若林」に始まる、「禅のこころ」を建学の精神とする学園です。

令和4年に学園創立150周年を迎えた本学園は、創設以来、禅を根本に据えた教育を実践して成果を積み重ね、在学生約1,600人の大学、約1,300人の中学・高等学校、約250人の幼稚園を擁する学園へと成長してまいりました。

本学園の目的は、単なる知識の獲得ではなく、禅を根底とした「こころを育てる」教育であり、これこそが現代社会が抱える諸問題を解決する大きな糸口となると確信しております。

花園大学は開創当時、臨済宗教団の近代化を図る上での主要機関として重要な存在意義を持っておりました。現在では、宗門の子弟だけでなく、歴史や福祉など目標の異なる多くの学生が集まり勉学や課外活動に励んでいます。「禅的仏教精神による人格の陶冶」を教育理念とし、「自己を知り、他者を受け入れ、社会に貢献する人間を育成すること」をミッションに、教育指導、人材育成に取り組んでいます。

花園中学・高等学校は、教育方針として「《禅のこころ》《校訓》《臨済宗妙心寺派の『生活信条』》を教育活動に取り入れ、生きる力を育むこと」を掲げ、生徒自身が目的意識を持った学習の継続、より高い目標に挑戦するという気概と自立心の涵養、さらに知徳体のバランスのとれた豊かな人間性の育成を目指しています。そして、個々を尊重しつつ、自分自身の目標に向かって、正しく判断し行動するための教育を行っております。

洛西花園幼稚園は、仏教的な環境に触れる中で人間形成の基礎を培い、情操豊かな園児を育むことを目標としています。特に、「健康でいきいき活動し、豊かに生きるための基礎を身につけること」を教育方針に掲げて日々園児たちに接しております。

このように禅を根底とした教育の実践により、私たちが目指す自ら学び自ら解決する「自立した自分」「わたしの中にある仏の心」を確かなものとし、それをともしびとして生き、自らの輝きをもって社会を照らし貢献してゆく人材を育てることこそが大切だと確信しています。花園学園はこれからも豊かな人間性を与えるための教育を目指し邁進してまいります。

(3) 学校法人の沿革

明治5	般若林(三年制)を創立(聯合総曩設立の為、明治8年に閉鎖)
明治19	大教校を設立
明治27	大教校を廃し普通学林を設立
明治36	花園学林と改称
明治40	花園学院と改称して、中学部・高等部に分ける
明治44	花園学院高等部を臨済宗大学と改称し独立
大正8	花園学院中等部を花園中学と改称
昭和2	組織変更により花園中学校を設立(臨済学院中学部設立の為、昭和13年に廃校)
昭和9	臨済宗大学を臨済学院専門学校と改称 臨済学院中学部を設立
昭和10	設立者を財団法人妙心寺派教学財団に変更
昭和22	京都市委託により、臨済学院中学部に花園中学校附設(昭和24年に廃止)
昭和23	学制改革により臨済学院中学部を花園高等学校に改制
昭和24	花園大学設立 仏教学部仏教学科設置
昭和26	財団法人妙心寺派教学財団を学校法人妙心寺派教学団に組織変更
昭和27	花園高等学校 商業科を新設
昭和39	花園大学 仏教福祉学科設置
昭和41	学校法人妙心寺派教学団から学校法人花園学園に改称 花園大学 文学部設置
昭和43	花園高等学校 自動車科を設置
昭和52	花園大学 総合移転
昭和53	花園高等学校 普通科に特別進学コースを新設
昭和55	花園大学 文学専攻科設置
昭和56	洛西花園幼稚園設置
昭和57	高等学校寄宿舎(雪江寮)閉寮
昭和61	花園大学 国際禅学研究所設置
平成4	花園大学 社会福祉学部設置 社会福祉学科
平成6	花園大学 大学院文学研究科設置
平成7	花園高等学校 商業科を募集停止
平成10	花園大学 大学院社会福祉学研究科設置 花園高等学校 自動車科を自動車工学科に名称変更
平成12	花園大学 歴史博物館設置 花園大学 大学院文学研究科博士(後期)課程設置 花園大学 社会福祉学部社会福祉学科福祉介護コース開設

平成14	花園大学 社会福祉学部福祉心理学科設置 花園大学 文学部仏教学科を国際禅学科に名称変更
平成15	花園高等学校 商業科を廃止 花園中学校設置
平成18	花園高等学校 自動車工学科を募集停止
平成19	花園大学 社会福祉学部福祉心理学科を臨床心理学科に名称変更 花園大学 臨床心理士養成課程（第1種）指定
平成20	花園大学 文学部文化遺産学科設置 花園大学 文学部創造表現学科設置 花園大学 文学部史学科を日本史学科に名称変更 花園大学 文学部国文学科を日本文学科に名称変更
平成21	花園大学 社会福祉学部児童福祉学科設置
平成22	生涯学習センターを開講
平成24	花園学園創立150周年記念事業準備室設置
平成25	花園大学 文学部国際禅学科を仏教学科に名称変更 花園学園 創立150周年記念事業事務棟（又玄館）設置
平成28	花園大学 文学部創造表現学科を募集停止 文学部文化遺産学科を募集停止 花園中学校 中高一貫スーパーグローバルZENコース新設 中高一貫ディスカバリーコース新設 一貫Sコースを廃止
平成29	花園大学 留学生別科設置
令和4	学園創立150周年記念式典を挙げる

(4) 設置する学校・学部・学科等

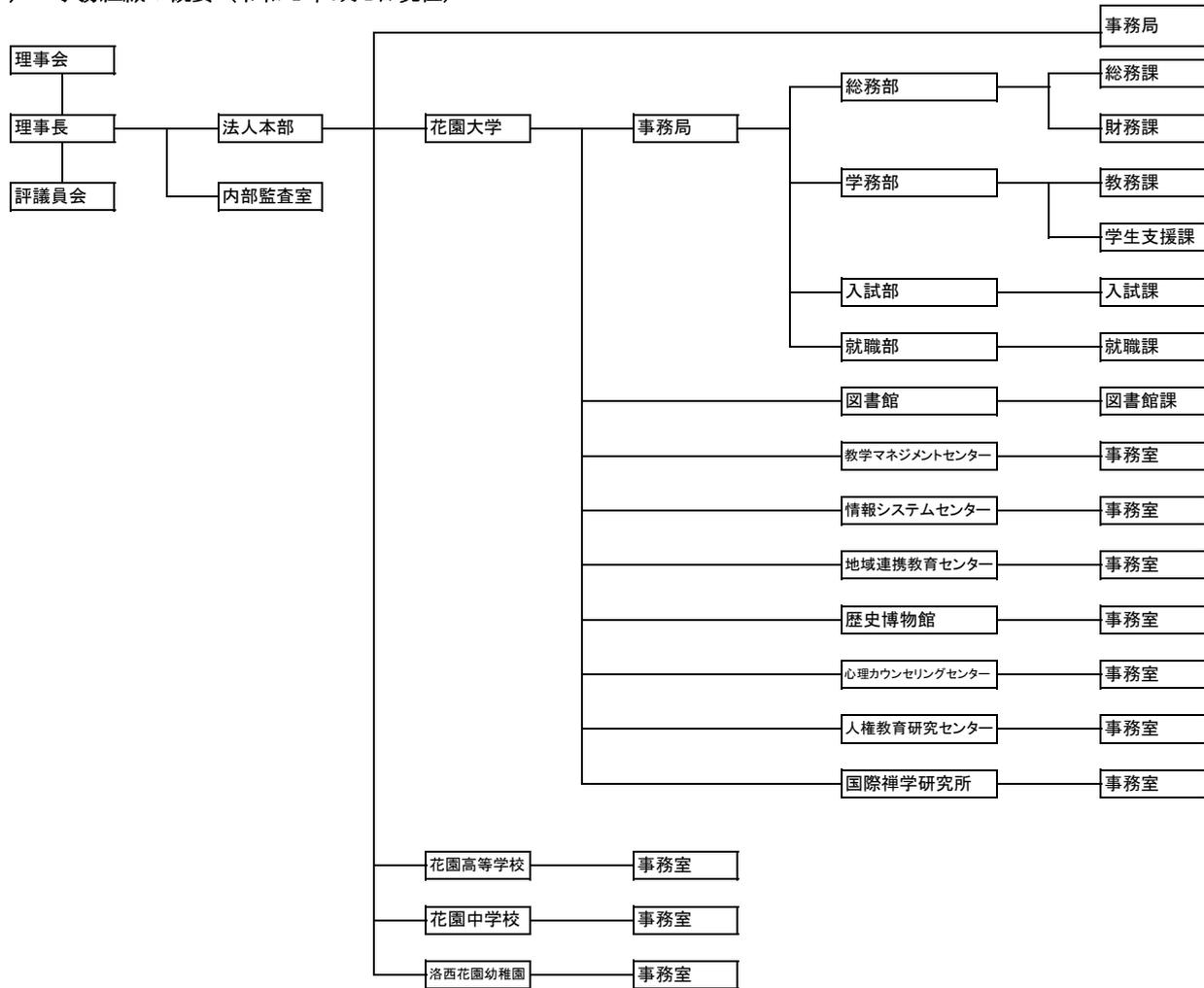
設置する学校	学部・学科等
花園大学大学院	文学研究科
	文学研究科専攻修士課程
	文学研究科専攻博士後期課程
	社会福祉学研究科
	社会福祉学研究科専攻修士課程
花園大学	文学部
	仏教学科
	日本史学科
	日本文学科
	文化遺産学科（募集停止）
	創造表現学科（募集停止）
	社会福祉学部
	社会福祉学科
	臨床心理学科
	児童福祉学科
留学生別科（募集停止）	
花園高等学校	全日制（普通科）
花園中学校	
洛西花園幼稚園	

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況（令和4年5月1日現在）

（単位：人）

学校名	入学定員	入学者	収容定員	現員	
花園大学	文学部	160	117	640	623
	仏教学科	35	21	140	117
	日本史学科	65	60	260	282
	日本文学科	60	36	240	221
	文化遺産学科（募集停止）	0	0	0	1
	創造表現学科（募集停止）	0	0	0	2
	社会福祉学部	245	191	980	932
	社会福祉学科	80	57	320	327
	臨床心理学科	85	101	340	388
	児童福祉学科	80	33	320	217
	文学研究科	17	3	36	13
	文学研究科専攻修士課程	15	2	30	9
	文学研究科専攻博士後期課程	2	1	6	4
	社会福祉学研究科	10	1	20	6
	社会福祉学研究科専攻修士課程	10	1	20	6
留学生別科（募集停止）	40	0	0	0	
花園高等学校	320	491	960	1,212	
花園中学校	80	62	240	160	
洛西花園幼稚園	100	56	280	247	
合計	972	921	3,156	3,193	

(6) 事務組織の概要 (令和4年5月1日現在)



(7) 収容定員充足率 (毎年度5月1日現在)

(単位 : %)

学校名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
花園大学	92.20	95.62	104.00	101.91	93.91
花園高等学校	104.69	103.13	106.67	113.86	126.25
花園中学校	83.33	83.75	77.08	67.92	66.67
洛西花園幼稚園	61.07	71.43	73.57	83.21	88.21

(8) 役員の概要(令和4年5月1日現在)

理事定員 : 11名以上13名以内 監事定員 : 2名
 理事現員 : 12名 監事現員 : 2名
 理事長 野口 善敬
 専務理事 栗原 正雄
 常務理事 堀尾 和良、足立 宜了、磯田 文雄、石田 斉、溜 剛
 理事 中島 浩晶、小山内定代、津田 純一、鬼頭 孝道、宮川 潤一
 監事 若山 昌子、人見 智裕

(9) 評議員の概要(令和4年5月1日現在)

評議員定員 : 26名以上31名以内
 評議員現員 : 28名
 評議員 野口 善敬、栗原 正雄、堀尾 和良、足立 宜了、磯田 文雄、石田 斉、
 溜 剛、中島 浩晶、小山内定代、真常 紹天、吹田 良忠、小林 秀嶽、
 山本 清文、福富 昌城、師 茂樹、鏑田 英希、秦 美香子、中村 広記、
 肥田 明啓、細川 晋輔、川本 成吾、佐野 泰典、柴山 昌実、梅 俊行、
 宮川 潤一、津田 純一、川島由里子、千代 眞一

(10) 教職員の概要（令和4年5月1日現在）

（単位：人）

区分		法人本部	花園大学	花園高等学校	花園中学校	洛西花園幼稚園	計
教員	本務	0	63	86	19	14	182
	兼務	0	137	27	2	12	178
職員	本務	4	54	19	1	1	79
	兼務	0	4	3	0	1	8

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

<花園学園>

1. 学校法人花園学園中期計画の推進
2. 学園創立150周年記念事業の遂行
3. 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

<花園大学>

1. 建学の精神「禅的仏教精神に基づく人格の陶冶」を具現化し、自己を知り、他者を受け入れ、社会に貢献する人間を育成するため、新しい花園大学中期ビジョン2022-2026の具体的施策を推進する。
2. コロナ禍が継続する中で、学生の学修機会の確保と、感染防止の両立を図る。
3. 花園学園創立150周年に係るキャンパス整備事業を完了する。

<花園中学高等学校>

1. 建学の精神に基づく教育の実践
2. 夢を育て高い目標を持つ
3. 21世紀型教育の取り組み
4. 健全な学校運営

<洛西花園幼稚園>

1. 基本的な生活習慣の形成
2. 教職員の質の向上
3. 安全・安心の幼稚園づくり
4. 健全な幼稚園運営

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

<花園学園>

1. 学校法人花園学園中期計画の推進

学校法人花園学園中期計画の期間満了により、大学・中高・幼稚園それぞれに期間を2022年度から2026年度までの5年間とする新中期計画を策定し、計画に基づいた取り組みを進めました。

2. 学園創立150周年記念事業の遂行

妙心寺法堂にて創立記念式典を感染防止に配慮して開催しました。式典では、幼稚園児の献灯献花や高校生による誘導など学園全体で取り組みました。式典では、横田南嶺大学総長と宮川潤一ソフトバンク代表取締役社長兼CEOの記念対談を行うなどし、盛大裡に終えることができました。

創立150周年寄付金状況（令和4年9月30日時点）及び各校記念事業を総括し、11月理事会・評議員会に報告するとともに、個人・法人すべての寄付者に報告書を送付して、11月末日をもって記念事業室を解散しました。

大学・中高・幼稚園それぞれにおいて計画どおりに校舎や設備の更新を行ない、学生・生徒・園児に新たな学修環境を提供することができました。中高・幼稚園では、昨年度に供用を開始し、大学では返照館の供用を6月より開始しました。

3. 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

理事会・評議員会の適切な運営に努めた他、私立学校法に定める情報公開について、学園ホームページ等により積極的に発信を行いました。

「学校法人花園学園花園大学ガバナンス・コード」を令和4年3月23日に制定し、学園及び大学のホームページにて公開しました。

学園ホームページの全面的な刷新を行ない、令和4年10月より公開し、これにより判りやすい情報公開をすることができました。

<花園大学>

1. 花園大学中期ビジョン2022-2026の具体的施策を計画し、以下のとおり実行しました。

【学生サポート】

基礎教育における1・2年次必修授業を学科教員が担当することで担任制を強化した他、入学前教育として年内入試の入学生に対し各学科作成の課題を提示し教員が添削し入学生へ返却するなど学生サポートを強化しました。

配慮を要する学生に対し、学科教員を含めて面談を実施し、授業担当教員に情報共有を行ないました。また、成績不振学生について成績通知後に学科や担任へ連絡し、面談や学生カルテによる情報共有を行ないました。

学生の負担軽減のため、一般選抜の成績優秀者に対し、原則4年間の学納金を無償とする奨学金を新たに創設し同窓会・後援会の協力を得て、学内のWi-Fi環境を強化した他、図書館の電子データベースをいつでも安全に利用できる環境を構築し、学生サービスの強化を図りました。

3年ぶりとなる学園祭を学生主体で計画し盛大に開催した他、京都市右京区との連携事業や「絵本フェスティバル」などの独自事業を通じ、社会貢献と学生自立を支援しました。

各種就労移行支援事業と密に連携し、学生の進路支援に努めた他、進路サポートシステムの機能向上、多くの企業・団体を招いた就職説明会や個別就職説明会の開催、商工会議所等諸団体との連携によるインターンシップや求人獲得強化など、学生の進路支援のための施策を充実しました。

【研究】

教員が計画的に研究を遂行できるよう手続き方法を見直しました。

外部資金獲得を促した結果、昨年度から採択件数が増加しました。

地域における諸課題の解決を目指す研究を支援しました。

【教育】

学生の主体性や能力を伸ばすための学生本位の学士教育課程を目指し、科目の精査を行ない、カリキュラム見直しを実施しました。

初年次教育を抜本的に見直し、3・4年次の演習に繋がるようにカリキュラムを見直しました。

京都市右京区のまちづくり支援事業に積極的に参加し、本学の学生団体2組の企画が採択されました。

【組織】

10月以降、コロナ禍で制限していた一般入構を解除し、地域の学びのキャンパスとしての活動を再開しました。

大学ホームページで本学教員の研究内容を分かりやすく掲載することとした他、出前授業の募集を行ないました。

学長自ら近隣高校への訪問を行なう他、コロナ禍で訪問できていなかった高校へ積極的に訪問し、募集力強化を図りました。

教員採用を国際公募を原則としたことで優秀な教員の獲得を行なうことができました。

学生の負担軽減を第一にした経費の見直しのため、財務課を中心に予算管理を実施した他、学まち連携大学促進事業を継続しました。

新たな教育方法の公開や見せ方の工夫を行ないました。

2. 感染防止策の徹底と学修機会の確保

危機管理委員会で感染防止策を決定し迅速に対応した他、学修機会閣のため、座席制限を行なった上で、対面を原則として授業を行ないました。

3. 花園学園創立150周年記念事業の完了

学園創立150周年として計画したキャンパス整備事業を完了させ、講義や課外活動などで学生利用を開始しました。

<花園中学高等学校>

1. 建学の精神に基づく教育の実践

各コースとも年度当初に計画を立案し、コロナ禍においても実施可能な形態に移行させながら教育活動を実施しました。

2. 夢を育て高い目標を持つ

引き続きコロナ禍の中、一貫コースで実施している海外研修は可能な限り実施することができました。また、海外大学に進学するという夢をもった生徒のために授業内容を工夫しモチベーション維持に努めました。

コロナ感染の影響により海外大学から国内大学進学に変更する生徒の進路保障のため、引き続き柔軟なカリキュラムの選択を可能にしました。また高校の3コースでは主体的に学習できるように、多数のE X講座や特別講座の開講や独習会の実施に努めました。

3. 21世紀型教育の取り組み

生徒や保護者、教職員における新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者の影響を考慮し、最大限の感染防止対策を講じながら、上記取組の充実を図りました。

4. 健全な学校運営

新しい校舎の建設に加えて、コロナ禍においても実施できる、安心して丁寧な学校説明会やオープンキャンパスを繰り返し実施したことによって、昨年と同様の生徒数の確保ができました。

<洛西花園幼稚園>

1. 基本的な生活習慣の形成

仏教行事は、妙心寺派のご協力のもと例年どおりに行いましたが、コロナ感染防止の為、毎週行う仏参は、全園児ではなく、人数制限の下、各学年での取組としました。制限下でありましたが、園児たちの心の成長に繋がりました。

コロナ禍の中でしたが、感染防止に努めることでほとんどの園行事を従来どおり行うことができ、充実した保育を提供することができました。

幼稚園での様々な経験や体験を通し、心身ともに健康で人間性豊かな子供の育成に繋げることができました。

2. 教職員の質の向上

職員会議を充実し、目標を持ちながら保育に取り組むことで、教職員同士切磋琢磨することができました。また、ウェブ研修やライブ配信の研修にも積極的に参加を行いました。

園内研修として講師の先生を招き研修を行うことで教職員の保育に向ける意欲が高まりました。

3. 安全・安心の幼稚園づくり

京都府警平安騎馬隊を招き、交通ルールや横断歩道の渡り方などについて、園児だけでなく保護者も共に学ぶ機会を提供しました。

避難訓練を実施し、安全、安心な幼稚園づくりに努めました。

教職員で園内の危険箇所を常に巡回するようにしました。また、園児の遊びのルールや道具の使い方などを徹底することで怪我やトラブルの減少に繋がり、安全に過ごすことができました。

4. 健全な幼稚園運営

未就園児対象のパンピの会やリンちゃんクラブの開催により、園の評判も広がり入園児の人数が安定しました。

日々の丁寧な保育に加え、家庭との連携を密に取り、安心かつ健全に園児が過ごせる環境づくりができました。

学園創立150周年記念式典の一環としてキャラクターショーを開催し、コロナ禍中であつたが盛大に行うことができました。また、保護者や未就園児保護者にも広く認識してもらうことで口コミが広がり、園児獲得に繋がりました。

3. 財務の概要

(1) 経年比較

① 貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
固定資産	27,757,453	28,358,357	28,754,343	29,338,154	28,736,891
流動資産	3,589,116	3,406,808	3,815,346	4,402,694	4,834,566
資産の部合計	31,346,569	31,765,166	32,569,689	33,740,848	33,571,458
固定負債	935,228	1,408,811	2,578,402	3,574,659	3,480,474
流動負債	687,770	718,548	738,961	825,281	939,249
負債の部合計	1,622,999	2,127,359	3,317,364	4,399,940	4,419,724
基本金	29,128,219	29,645,746	30,448,949	31,462,073	31,357,618
繰越収支差額	595,351	△ 7,939	△ 1,196,624	△ 2,121,164	△ 2,205,884
純資産の部合計	29,723,570	29,637,806	29,252,325	29,340,908	29,151,733
負債の部及び純資産の部合計	31,346,569	31,765,166	32,569,689	33,740,848	33,571,458

(千円未満は切り捨て)

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
運用資産余裕比率	3.73年	3.54年	2.96年	2.62年	2.54年
流動比率	521.85	474.12	516.31	533.48	514.73
総負債比率	5.18	6.70	10.19	13.04	13.17
前受金保有率	707.90	706.25	869.57	977.16	1,204.95
基本金比率	99.63	98.65	94.70	91.39	91.96
積立率	109.11	105.21	98.41	92.93	94.87

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	2,622,404	2,666,010	2,796,141	2,819,599	2,813,199
手数料収入	71,033	75,421	66,112	59,199	66,223
寄付金収入	78,716	363,268	237,983	239,811	141,418
補助金収入	880,094	823,466	1,012,557	1,228,228	1,006,320
資産売却収入	419,215	349,836	1,215,776	2,067,748	158,077
付随事業・収益事業収入	21,158	7,658	1,852	12,359	13,988
受取利息・配当金収入	205,611	211,483	208,659	204,886	211,673
雑収入	153,130	122,439	74,813	228,723	227,118
借入金等収入	0	433,320	1,280,000	1,210,000	100,000
前受金収入	482,208	453,430	414,262	405,530	389,269
その他の収入	269,470	330,285	1,083,104	1,169,657	1,771,918
資金収入調整勘定	△ 582,857	△ 656,310	△ 639,934	△ 848,947	△ 527,547
前年度繰越支払資金	3,586,566	3,413,544	3,202,342	3,602,313	3,962,665
収入の部合計	8,206,753	8,593,854	10,953,674	12,399,109	10,334,327

支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	2,434,521	2,457,683	2,406,748	2,625,743	2,410,786
教育研究経費支出	1,107,676	1,097,041	1,323,002	1,211,852	1,245,347
管理経費支出	331,021	339,006	270,771	329,790	285,003
借入金等利息支出	1,820	1,479	2,173	3,867	5,006
借入金等返済支出	35,888	35,888	35,888	37,142	203,173
施設関係支出	67,026	781,430	1,936,581	1,555,895	1,131,894
設備関係支出	84,494	82,778	247,791	133,018	278,915
資産運用支出	681,384	605,385	1,021,229	2,345,572	90,844
その他の支出	136,894	198,585	254,012	312,954	219,559
資金支出調整勘定	△ 87,518	△ 207,765	△ 146,838	△ 119,392	△ 226,710
翌年度繰越支払資金	3,413,544	3,202,342	3,602,313	3,962,665	4,690,505
支出の部合計	8,206,753	8,593,854	10,953,674	12,399,109	10,334,327

(千円未満は切り捨て)

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,815,319	3,730,020	3,931,143	4,191,665	4,171,707
教育活動資金支出計	3,873,219	3,893,730	4,000,522	4,127,537	3,938,588
差引	△ 57,899	△ 163,710	△ 69,379	64,128	233,118
調整勘定等	23,941	△ 21,670	21,628	△ 97,583	261,455
教育活動資金収支差額	△ 33,958	△ 185,381	△ 47,750	△ 33,455	494,574
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	42,895	378,435	1,018,744	1,196,368	1,265,146
施設整備等活動資金支出計	363,397	1,070,149	2,286,146	2,301,883	1,431,198
差引	△ 320,502	△ 691,713	△ 1,267,402	△ 1,105,514	△ 166,051
調整勘定等	11,593	113,305	△ 71,568	△ 244,854	171,863
施設整備等活動資金収支差額	308,908	△ 578,408	△ 1,338,970	△ 1,350,369	5,811,723
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 342,866	△ 763,789	△ 1,386,720	△ 1,383,824	500,386
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	760,443	1,109,497	2,853,784	3,665,448	646,258
その他の活動資金支出計	587,733	540,716	1,051,880	1,922,245	412,311,243
差引	172,709	568,780	1,801,904	1,743,202	233,947
調整勘定等	△ 2,865	△ 16,722	△ 15,213	974	△ 6,492
その他の活動資金収支差額	169,844	552,058	1,786,691	1,744,176	227,454
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 173,022	△ 211,731	399,970	360,351	727,840
前年度繰越支払資金	3,586,566	3,413,544	3,202,342	3,602,313	3,962,665
翌年度繰越支払資金	3,413,544	3,202,342	3,602,313	3,962,665	4,690,505

(千円未満は切り捨て)

ウ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動資金収支差額比率	△ 0.89	△ 4.79	△ 1.21	△ 0.80	11.86

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

事業活動収入の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	学生生徒等納付金	2,622,404	2,666,010	2,796,141	2,819,599	2,827,796	
手数料	71,033	75,421	66,112	59,199	66,223		
寄付金	71,935	61,747	48,407	39,358	45,408		
経常費等補助金	876,660	797,702	945,306	1,032,426	1,005,952		
付随事業収入	21,158	7,658	1,852	12,359	13,988		
雑収入	131,083	109,527	65,402	180,859	239,905		
教育活動収入計	3,794,277	3,718,068	3,923,223	4,143,802	4,199,274		
事業活動支出の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	人件費	2,377,033	2,459,751	2,384,851	2,569,914	2,405,286	
	教育研究経費	1,483,120	1,478,486	1,761,397	1,635,383	1,717,366	
	管理経費	374,842	376,830	321,947	335,758	331,745	
	徴収不能額等	219	82	267	6,738	14,597	
	教育活動支出計	4,235,216	4,315,149	4,468,464	4,547,794	4,468,994	
教育活動収支差額		△ 440,938	△ 597,081	△ 545,241	△ 403,992	△ 269,720	
教育活動外収入の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	受取利息・配当金	205,611	211,483	208,659	204,886	211,673	
	その他の教育活動外収入	0	0	450	17,782	13,318	
	教育活動外収入計	205,611	211,483	209,109	204,904	224,991	
	教育活動外支出の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		借入金等利息	1,820	1,479	2,173	3,867	5,006
その他の教育活動外支出		0	0	6,928	0	10	
教育活動外支出計		1,820	1,479	2,180	3,867	5,017	
教育活動外収支差額		203,791	210,004	206,929	201,036	219,974	
経常費収支差額		△ 237,147	△ 387,076	△ 338,312	△ 202,955	△ 49,745	
特別収入の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	資産売却差額	465	0	2,019	36,985	0	
	その他の特別収入	11,262	328,258	259,056	398,020	96,381	
	特別収入計	11,728	328,258	261,076	435,006	96,381	
	特別支出の部	科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		資産処分差額	11,407	26,945	308,245	103,619	233,260
その他の特別支出		0	0	0	39,848	2,548	
特別支出計		11,407	26,945	308,245	143,468	235,809	
特別収支差額		320	301,312	△ 47,169	291,538	△ 139,428	
基本金組入前当年度収支差額		△ 236,826	△ 85,763	△ 385,481	88,582	△ 189,174	
基本金組入額合計		△ 180,000	△ 517,527	△ 803,203	△ 1,013,123	104,454	
当年度収支差額		△ 416,826	△ 603,290	△ 1,188,684	△ 924,540	△ 84,719	
前年度繰越収支差額		854,922	595,351	△ 7,939	△ 1,196,624	△ 2,121,164	
基本金取崩額		157,255	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		595,351	△ 7,939	△ 1,196,624	△ 2,121,164	△ 2,205,884	

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業活動収入計	4,011,617	4,257,810	4,393,409	4,783,713	4,520,647
事業活動支出計	4,248,444	4,343,574	4,778,890	4,695,130	4,709,821

(千円未満は切り捨て)

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業活動収支差額比率	△ 5.90	△ 2.01	△ 8.77	1.85	△ 4.18
学生生徒等納付金比率	65.56	67.85	67.66	64.84	63.92
人件費比率	59.43	62.20	57.71	59.10	54.37
教育研究経費比率	37.08	37.62	42.62	37.61	38.82
管理経費比率	9.37	9.59	7.79	7.72	7.50

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

収入の部、学生生徒等納付金収入は前年度比でほぼ横ばいとなりました。手数料収入は、受験者数増加による入学検定料収入増などにより微増となりました。その他の収入は、学園創立150周年記念事業として構内整備を行うため第2号基本金取り崩しを主な要因として602,261千円の増額となりました。

支出の部、人件費支出は教職員数や退職者の減により前年度比214,957千円の減額となりました。教育研究経費支出は光熱水費の高騰や奨学費や学生厚生費など学生支援に係る費用の増加により33,495千円の増額となりました。管理経費支出は広報や委託業務の見直しにより44,787千円の減額となりました。施設関係支出は花園中学高等学校・洛西花園幼稚園の学園創立150周年記念事業に係る構内整備が前年度に完了した一方で花園大学の構内整備を行ったことから1,131,894千円となりました。設備関係支出は教育研究用機器備品購入などにより278,915千円となりました。以上から、翌年度繰越支払資金は727,840千円増額の4,690,505千円となりました。

事業活動収支は、教育研究経費で光熱水費や学生支援に係る費用の他、施設設備更新による減価償却額が増額となった一方で、人件費が減額となったことから経常収支差額は前年度より153,210千円改善し、△49,745千円となりました。特別収支、基本金組入額合計を合わせた当年度収支差額は△84,719千円となりました。